第10回遠野市進化まちづくり検証委員会
―　議事概要　―

（開催要領）

1　日時　平成23年 2月 9日（水）午後 1時30分 ～ 午後 3時00分

2　場所　遠野市役所３階大会議室

3　出席者

(1) 委員

委員長	山　田　晴　義	岩手県立大学名誉教授、宮城大学名誉教授
委員	秋　山　信　勝	秋山会計事務所代表取締役
委員	小野寺　純　治	岩手大学地域連携推進センター教授
委員	鈴　木　高　繁	有限会社Ｋ・Ｃ・Ｓ代表取締役

(2) 遠野市

本　田　敏　秋	市長
及　川　増　徳	副市長
藤　澤　俊　明	教育長 （財団法人遠野市教育文化振興財団常務理事）
平　野　智　彦	経営企画室長・総務部長
三　嶋　邦　明	総務部付部長 （株式会社遠野テレビ専務取締役）
山　尾　幸司郎	健康福祉部長
運　萬　　勇	産業振興部長 （社団法人遠野ふるさと公社理事／遠野市観光協会所管部長）
菊　池　武　夫	農業活性化本部長 （株式会社リンデンバウム遠野取締役／社団法人遠野ふるさと公社理事／社団法人遠野市畜産振興公社理事／社団法人宮守わさびバイオテクノロジー公社）
櫻　井　　収	社団法人遠野市畜産振興公社理事
立　花　　恒	環境整備部長
佐々木　政　嗣	環境整備部施設整備担当部長
荒　田　昌　典	文化政策部長 （遠野アドホック株式会社取締役）
細　越　　勉	教育次長・市民センター所長 （財団法人遠野市教育文化振興財団総務部長）
菊　池　保　夫	経営企画室経営企画担当課長
菊　池　文　正	経営企画室経営改革担当課長
谷　地　孝　敏	総務部総務課長
荻　野　　優	総務部財政課長
遊　田　啓　悦	総務部管理情報課長
古　川　　憲	産業振興部産業振興課長
鈴　木　惣　喜	産業振興部観光交流課長

千　葉　博　正	農業活性化本部農業担当課長
村　上　信　次	農業活性化本部馬の里担当課長
菊　池　清　春	農業活性化本部畜産担当課長
大　里　政　純	農業活性化本部林業振興室長
小笠原　　晋	文化政策部文化課長
照　井　講　一	市民センター地域生活課長
奥　瀬　好　宏	市民センター社会教育課長
飛　内　雅　之	教育委員会事務局教務課長
菊　池　孝　二	特命参与 （社団法人遠野ふるさと公社常務理事／社団法人遠野市畜産振興公社専務理事／社団法人宮守わさびバイオテクノロジー公社理事長）

（議事次第）

1　開会
2　報告書提出
3　遠野市進化まちづくり検証委員会委員長報告
4　閉会

（配布資料）

・　遠野市進化まちづくり検証委員会第三セクター等の検証結果報告書

（議事概要）

１　開会

〇平野智彦　経営企画室長

第10回遠野市進化まちづくり検証委員会を開会させていただきます。

２　報告書提出

〇平野経営企画室長

それでは、報告書を山田委員長から市長に提出いただきます。

〇山田晴義　委員長

昨年2月10日の初会合から今日まで10回に渡り検証して参りました。

本日、その結果を報告いたします。

提言を是非参考にしていただき、遠野市の発展に役立てていただければと思います。

どうぞよろしくお願いします。

－山田委員長から本田市長へ報告書を提出－

〇本田敏秋　市長

只今、山田委員長から検証結果の報告をいただきました。

１年間に渡る長い時間をかけて、慎重に検証いただきました。

今日いただいた報告書は、市はもちろんのこと、関係団体、市民の皆様にもご理解いただきながら、この提言に基づく対応をして参りたいと思います。

大変ありがとうございました。

３　遠野市進化まちづくり検証委員会委員長報告

〇平野経営企画室長

それでは、山田委員長から検証結果について、ご報告いただきます。

〇山田委員長

（遠野市進化まちづくり検証委員会第三セクター等の検証結果報告書の内容を説明）

〇平野経営企画室長

山田委員長からは、総括所見、全体提言、個別提言についてご報告いただきました。ありがとうございました。

出席委員からもコメントをお願いできればと思います。

〇秋山信勝　委員

私は仕事が税理士ですので、どうしても財務的な部分に目がいってしまいます。どの団体のみなさんも、数字をきちんとまとめて提出いただきましたことに、感謝いたしております。

先程、山田委員長から報告されましたとおり、グルーピングして有機的な関係を作ることも結構なことでございますが、それぞれの部門、それぞれの会社、それぞれの団体がきちんと独立した形で、自立した姿で対応することが最も基本的なあり方だと思います。

株式会社遠野につきましては、特に昨年は遠野物語発刊百周年もあり非常に脚光を浴びた訳ですが、今後そういった企画が無いとなれば、客足が急に冷え込み、結果的にはいい数字が出てこないということにもなりかねません。そこで、先行管理として稼働率の管理について、今から戦略的な計画を立てていくということが必要だと思います。

株式会社遠野テレビでは、地震災害の際に双方向での安否確認に活用されたと伺いました。

災害情報の迅速な伝達は、遠野市にとって非常に重要な内容であろうと思います。

最後に、馬の里の関係ですが、新しい方向が示されて、民営化する形で進められていると伺っております。是非、粛々と進めていただきたいと思います。

以上、気付いた点を述べさせていただきました。

〇小野寺純治　委員

今回検証させていただいた市関与の10団体は、それぞれ設置目的も業務も多様であり、遠野市民ではない私共にもわかりやすい資料を用意いただいた市の熱意ある作業に感謝申し上げたいと思います。また、検証委員会ではどうしても意地悪いと捉えられる質問もあったかと思いますが、団体の代表や幹部の方が熱心に、真摯に受け答えいただき、改めて感謝申し上げたいと思います。おかげで、先程山田委員長から報告されたとおり、かなり踏み込んだ内容で取りまとめることができたと思います。

私は大学におりまして、地域と大学との連携による地域振興を専門に担当しています。その中で、地域振興のランドスケープ（鳥瞰視）的な観点からこの委員会で発言させていただく役割を担わせていただきました。

感想も含めて４点申し上げたいと思います。

１つは、団体と市との関係、団体間の関係についてです。今、国ではイノベーション・エコシステムという言葉が使われるようになりました。イノベーションとは、価値観が変わっていくことによって新しい変革を創っていく、社会的な変革と捉えております。エコシステムとは、生態系的な地域におけるイノベーションを起こしていくこと。何かの力で絶えずイノベーションを起こしていくものではなくて、そういうものが自立的に起きていくこと。例えば植物であれば、樹木が伸びて太陽の光を浴び、栄養を得て、水分を吸収して大きくなっていく。この樹木の幹の部分に当たる部分が市役所だと思います。その枝の部分が第三セクターや関係団体で、葉の部分が個々の企業等であると思います。

これからの遠野市の発展を考えますと、各団体の役割と活動方針を絶えず見直さなければいけないというのが２つ目の視点です。これも植物の話に例えますと、太陽は常に動きますが、朝日が照らす方向に対する葉の張り方と、夕方の葉の張り方、それから、水の流れも変わりますし、栄養分の届き方も違いますので、それに合せたかたちで、それぞれの枝もその方向を向きながら相互に連携をしなければ、一つの枝だけが大きくなってしまっても他の枝が枯れてしまい生育がよくならないなど、全体としても非常にバランスの悪いものになるだろうと思います。そうならないように、相互の連携をうまく取りながら、全体として調和のとれた姿のいい遠野市のスタイルができていることを絶えず頭に入れながら（盆栽のように）ハサミを入れていくことだろうと思います。各団体は相関関係を持ちながら、今どちらから陽が射しているか、水がきているのか、栄養があるのかを考えながら、自分の枝の張り様をきちんと作っていくことが必要だろうと思います。

３つ目は、活動に市民を巻き込むための不断の努力が必要であることです。例えば、遠野テレビの検証の際に、いただいた資料からは非常に努力しておられるように見えました。しかし、もう一方の遠野スタイル青年会議の別の視点からは、「楽しい番組がない」「値段が高い」など我々が感じ得ないものがでてきました。遠野に住んでいない私たちでは見逃している部分が、こうした複合的な連携からわかってきました。それを最終報告に盛り込むことができたことは、非常に大きな成果だったと思います。

また、馬の里は、非常に理念が素晴らしいのですが、競走馬を育成するところと市民に馬との触れ合いを作る場とが、施設的にも渾然一体となってしまっており、本当に市民向けに使える施設なのかどうかが悩ましい。そういったところを市民の目線でしっかりと検証していただきながら、本当に今のかたちでいいのか、どういうかたちで分けた方がいいのかきち

んと議論していく必要がある。それがあって初めて「馬の里」遠野のブランド化になっていくと思います。実は、私のところに市民の方が来られて熱心に意見交換をさせていただきました。このように、この検証委員会が市役所の一部だけでなく、遠野テレビで中継されて市民の方に視ていただきながら議論にも参加いただき、問題意識を持っていただくことは、非常に大きかったと思います。

４つ目は、各団体の設置形態が、設置目的に合っていないことです。例えば、風の丘の経営は社団法人ですが、風の丘の経営ということであれば、もっと収益性を狙ってもいいのではないか。しっかりと経営理念を持ちつつ貯める時には貯めていって、それで計画的に施設改修や人材育成をやっていく形態に変えていくことも必要だろうと思います。検証委員会では、そこを中心に議論ができたのでよかったと思います。

最後に、このように外部の専門家が入っての取り組みは、私の知る限りにおいて岩手県内では初めてのものと思います。新しい遠野市をつくるといった英断に敬意を表したいと思います。ただし、これからがスタートラインで、本当の意味で市民も入り、利害関係者（ステークホルダー）が入って自分の立場を主張しながら、或いは相手の立場を聴きながら全体を調整していく。自分の役割、位置付けをしっかりと見据えつつ、お互い連携していく互恵の第三セクターや民間団体が遠野の中に出てくることが必要だろうと思います。不断の改革の着手に入り、関係者や市民のみなさんが、その輪の中に入って自分の思いを、自分の立場で述べることが大事だと思います。お互いに述べつつ、お互いの立場を理解し合えることで、お互いの距離感がわかり、相対的な位置関係も決まってくるというような遠野市の取組みを、是非進行していただきたいと考えております。

〇鈴木高繁　委員

少し情緒的なお話になるかと思います。

これまで目の前に登場された方々の真摯な態度は、私が今まで味わったことが無い程素晴らしく、お礼を申し上げたいと思います。

先程の山田委員長の報告のとおり、この提言は遠野市民のみなさんに対してのものです。市民の皆さんには、もっと歴史と伝統と文化に培われた遠野市を誇りにしてもらいたいと思います。問題のない所などありません。問題がわかれば、それをどうすればいいか考えればいい訳です。今の遠野の良さを本当に体感し、誇りにするところから、次の改革、新しい出発ができると思います。もっと自信と誇りを持って、今から臨んでいただきたいと思います。

この提言の結果として、やがて市からいろいろな方策が出てくると思います。その中に、「自分達の命は自分達で守る」という気持ちをもって、市の方策・提言を聴いていただきたいと思います。遠野のあるべき姿というものが、いろいろと想い浮かんでくると思いますが、「命を守る」とは決して自分の命だけではなく、遠野に関わる「みんなの命を守る」ことです。あるべき姿は、10 人いれば 10 人が、いろいろな姿を想い浮かべるものと思います。実はそれが大事で、市から方針が出る時に、その姿と重ね合わせて意見をぶつけ合い、よりよい方向に進めることができるかどうかが分かれ道になります。

グループの方向性、各団体相互の有機的連携図をよくわかっていただきたいです。これを眺めて、見て、考えて、市と市民のみなさんが議論を交わされて、これを理解して、更に遠野の今と将来に自信と誇りを持って話し合われたとき、持続する活動、自立する遠野市ができると思います。次の 100 年をめざしたスタートをどうすればよいか、10 年後、20 年後でも、各々の姿を思い浮かべて、市民のみなさんが参加する勇気を持って飛び込んでいくことができるならば、それが自分達の幸せになって返ってくる。安心して生活できる。生きていける。ぐるぐるとらせん階段を上るように、いい方向に行くための大前提が、遠野への誇りと自信ですので、このことを是非心に留めておいていただきたいと思います。

委員を引き受けて大変よかった。遠野を知ることができ、遠野の理解者になれたと思います。もし、委員を引き受けてなければ、市の行政や市民のハートを学ぶことができなかったと思います。遠野の本当の良さを、自信を持って語れる市民になって欲しいと思います。

〇山田委員長

先程、第三セクター等について報告申し上げました。

進化まちづくり検証委員会の業務には第三セクター等の見直しの他に、審議会、関係機関・団体、市参加協議会等の見直しがあり、その結果を報告します。

審議会、関係機関・団体、市参加協議会等、507 団体のうち 257 団体を抽出し、その結果は、廃止が 49、統合が 15、見直しが 33、そして現状どおりが 124 でした。この結果は、委員会で直接議論した訳ではなく、事務局で検討いただいた結果に対して、それぞれ意見を述べる方法でまとめていただきました。

私が、この検証結果を適正と判断させていただいた根拠を述べさせていただきます。

１つは、検証する指標が非常にしっかりしており、どういう目安で検証するのかが丁寧に示されておりました。また、関係者のみなさんからのヒアリングをした上で結果を出しておりました。従いまして、こういう適切な方法できちんと検証案が作られたことを考えますと、これは非常に信頼の高い検証であると捉え、これを了とさせていただいた次第です。

先程、各委員から適切な発言をいただいております。遠野のこれからの姿は、自立と連携を実現していただくこと。それによって、持続性ある進化発展が期待できる遠野が望める。これまでの遠野の実行力を考えれば、この提言が実行されるものと期待しています。

客観的に、そしてシビアに議論させていただきました。一方では、この議論を通じて委員のみなさんも遠野ファンになられたようですし、これからの遠野のまちづくりに加わっていければと思っております。

４　閉会

〇平野経営企画室長

ありがとうございました。

昨年の 2 月 10 日の第 1 回検証委員会を開催し、今日まで丸一年、本当にありがとうございました。ここで市長から一言申し上げます。

〇本田市長

只今、山田委員長からの報告、秋山委員、小野寺委員、鈴木委員から、大変感激するコメントを頂戴しました。市幹部職員や各関係団体の職員が揃って報告書の内容を伺いました。

ちょうど１年前に、この進化まちづくり検証委員会がスタートした時、国の事業仕分けと同じように受け止められ、市民からもそのような問合せもあった訳です。

山田委員長を含む８人の委員さんが、遠野の歴史・文化・風土を踏まえながら、それぞれの団体、市の組織がどうあればいいか、きちんと整理をし、検証いただきました。

本日頂いた報告書は、遠野市のまちづくりにとりましても大変重いものであります。また、将来に渡ってきちんとしたまちづくりのスタートができるという内容での報告書だと受け止めたところです。

全国の市町村には、平成の大合併で悩んでいるところ、或いは合併の流れに乗れず、それでも頑張っているところがあります。勝ち組、負け組の議論もあるようですが、地域が生き残るという意味において、果たしてその言葉の使い方がいいのか、疑問を持っておりました。それぞれに立派な歴史があり、立派な地域があり、そこに住んでいる方は誇りをもっている訳です。その中にあって、費用対効果や採算性だけの議論ではなく、自分達が住んでいる地域に誇りを持ちながら、それをどう活かしていくか、地域総合力が全国の市町村に問われて

いるのではないかと思います。そうでなければ、地域主権や地方分権が、ただの言葉に終わってしまうのではないかなと思っております。

本日は、山田委員長から懇切丁寧な報告と説明をいただきました。そして、秋山委員、小野寺委員、鈴木委員からも、非常に感銘するようなコメントを頂いた訳です。それをきちんと受け止め、この厳しい現実を素直に受け止めながら、一つの力にもっていく取り組みを早速明日から行動を起こしたいと思います。

今後ともご指導ご教示賜りますようお願い申しあげ、御礼の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

〇平野経営企画室長

１年間大変ご苦労様でした。

この報告書を真摯に受け止め、まちづくりに努めて参りたいと思います。

以上をもちまして、第10回遠野市進化まちづくり検証委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。